

資生堂 女性研究者サイエンスグラントについて

株式会社資生堂 研究推進部 橋本 有紀子

「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」は、2007年に設立された研究助成制度です。日本が持続可能な発展を遂げるためには、科学技術の振興が不可欠です。そのためには、自然科学分野（理工科学系・生命科学系全般）における優秀な女性研究者の活躍が重要であると考え、日本の科学技術の発展に寄与することを期待し、自然科学分野で指導的立場を目指す意欲がある女性を支援することを目的として、本グラントを設立致しました。

資生堂 女性研究者サイエンスグラント設立の考え方

わが国は資源が乏しく、科学技術の進展が日本を支える非常に重要な要素です。世界トップクラスにある日本の科学技術レベルを維持・向上させるうえで、科学技術分野における優秀な人材の確保は喫緊の課題となっています。昨今、女性の活躍が経済成長に欠かせない中で、さらなる科学技術の発展のためにも、女性科学者の重要性は高まっています。

しかしながら、日本の全研究者に占める女性の割合は、世界最下位クラスに位置しています。本グラント設立当時の2007年、全研究者に占める女性割合は12.4%¹⁾でした。自然科学分野の女性研究者に限るとその割合は更に少なく、工学分野における女性の割合は7.0%、理学・農学分野などでも10数%台にとどまるような状況でした¹⁾。当時と比較すると、2014年3月現在、女性の割合は穏やかに増加傾向にあります。未だ14.6%にとどまっており、諸外国と比較して大きく下回っています²⁾。大学等における指導的研究者の状況はさらに深刻で、助教・講師・准教授・教授と職位が上がるにつれて女性の割合が低くなる傾向は継続しています。

日本の社会において女性研究者が研究生活や科学者としてのステップアップを諦める主な理由として、女性は男性に比べ「出産・育児・介護」といったライフステージの影響を受けやすい等が挙げられていました¹⁾。

そこで我々は、科学技術分野における女性研究者の活躍が一層重要となる将来を見据え、自然科学分野で活躍する優秀な女性研究者の研究活動を

支援し、次世代の指導的女性研究者の育成に貢献することを目的として、「女性研究者サイエンスグラント」を設立しました。

資生堂 女性研究者サイエンスグラントについて

本グラントは、より多くの女性研究者に対象者となっていたくため、年齢制限を設けず、研究分野についても、広く「自然科学全般」としています。

さらに、資生堂は女性が仕事（研究）を継続するには、ライフステージの変化を乗り越えることが大きな課題であることを認識しておりました。本グラントでは、女性研究者がライフステージの影響を受けずに研究を継続することを様々な方法で支援できるよう、研究補助員の雇用費用、出張時のベビーシッター費用など、幅広く活用できます。これは通常の研究助成において、助成金の使途が試薬や機器の購入などに限定されていることと比較して、大きなメリットとなっております。

企業としては比較的多い年間10件の採択数を維持しており、2016年第9回「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」受賞の方々を合わせると、今までに89名の女性研究者を支援させていただいています。

(<http://www.shiseidogroup.jp/rd/doctor/grants/science/>)

また、受賞者の研究分野が幅広いため、受賞式での出会いをきっかけに、異分野の女性研究者との共同研究の検討や、情報交換会の開催など、受賞者同志のコミュニケーションも広がっています。

科学技術分野の未来に向けて

現在も、女性研究者のステップアップへの課題として、「出産・育児・介護」等のライフステージの影響が大きいことは相変わらずですが、ロールモデルが少ないために女性研究者自身が将来像を描きにくいこと等も要因として挙がってきています²⁾。

今でこそ資生堂の研究所の女性の割合は約46% (2015年) となっておりますが、20年以上の期間を掛けて、様々な社内施策、支援策を推進してここまで増加してまいりました。職場に女性が増えると、身近な目標、すなわち自分に近いロールモデルを見つけ易くなり、自主的にキャリアアップを考えやすくなるということに繋がります。我々はこのような循環を自然科学分野の女性研究者の方々にも感じていただければと考えています。

一般的に「賞」というと、素晴らしい成果を出された方への敬意を形にしたものが多いかと思いますが、本グラントは、これから、まさに今、活躍しようとしているステージにいらっしゃる方々を、そして研究を進められた後にご自身の周りに影響を与え、後進を育成して未来につなげていただくことを応援したいと考えています。本グラントの選考基準に、研究の先進性、独創性等の項目もありますが、「指導的役割を担う研究者としての考え方」という観点があります。これは、受賞者に、次世代を担う若い女性研究者や女子学生のロールモデルとなっていきたいという我々の思いを込めています。そして、日本の科学技術分野における女性研究者の活躍、未来を応援していきたいというところが設立当初からの変わらぬ思いです。

実際に、歴代受賞者の半数近くが受賞後に昇格等、ステップアップされています。過去受賞された先輩の先生が、本グラントの社外審査員をご担当下さるようにもなりました。

このように、本グラントの受賞者が科学技術分野において活躍して周りに影響を与えて行って下さること、また受賞式で面識を持たれた先生方のネットワークから新たな技術・研究等が生まれて

いくなど、本グラントが日本の科学技術の発展と、女性研究者の活躍に貢献できれば、大変嬉しく思います。

参考文献

- 1) 内閣府 平成20年版 男女共同参画白書
- 2) 内閣府 平成27年版 男女共同参画白書



第8回資生堂女性研究者サイエンスグラント授賞式